

平成28年度 第4回家庭教育支援の推進方策に関する検討委員会 資料

先進的な家庭教育支援の取組を 応援するための方策について

1. アンケートから見えてくる親のニーズの傾向
2. 家庭教育支援センターペアレンツキャンプの取組
3. 大東市家庭教育支援チームの取組
4. 家庭教育支援の取組を応援するための方策について



平成28年10月24日

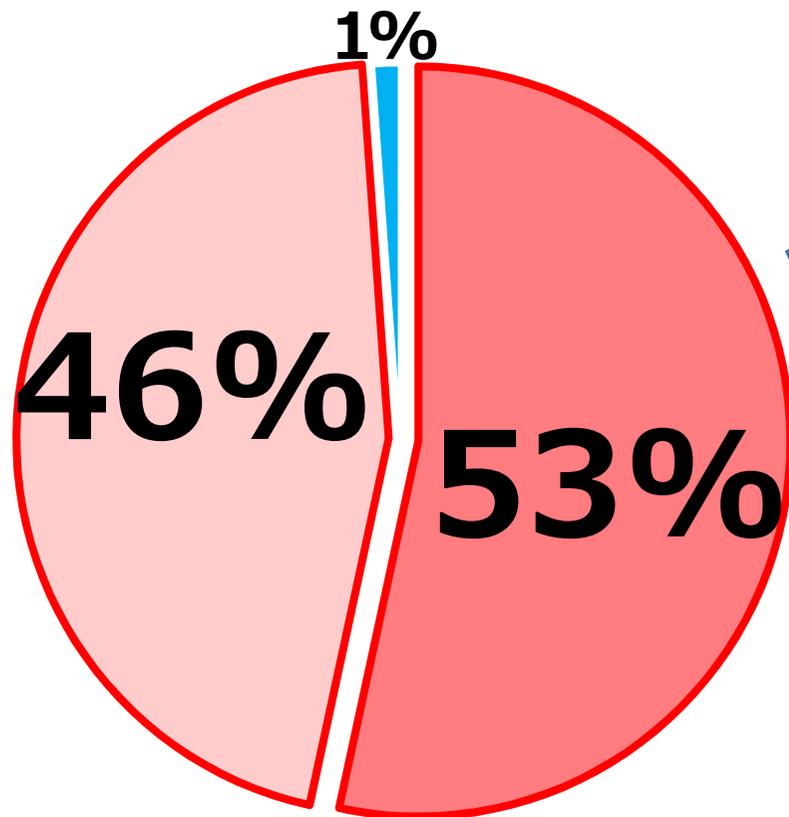
一般社団法人 家庭教育支援センター ペアレンツキャンプ

代表理事 **水野達朗**

1. アンケートから見えてくる親のニーズの傾向

最初に相談した窓口はどちらですか？

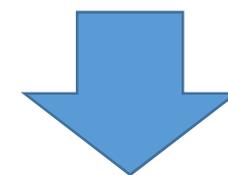
<ペアレンツキャンプクライアント調査>より N=188 (2016年)



私が支援した家庭の

99%

が最初に相談した窓口は



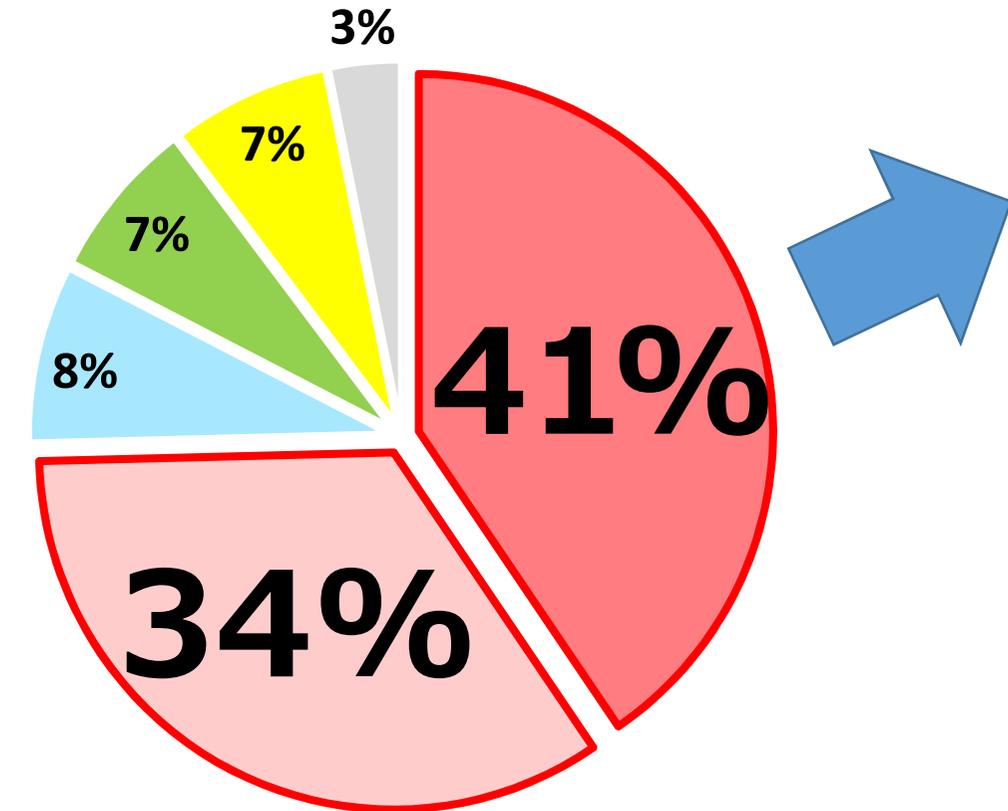
公的機関

- 行政窓口相談した
- 学校等に相談した
- 民間支援機関に相談した

1. アンケートから見えてくる親のニーズの傾向

どのような媒体でペアレンツキャンプの支援を知りましたか？

<ペアレンツキャンプクライアント調査>より N=188 (2016年)



私が支援した家庭の

75%

の選択行動の判断基準

web媒体

■ HP

■ 友人の紹介

■ 書籍、講演会

■ ブログ、SNS

■ 他機関からのリファー

■ その他

1. アンケートから見えてくる親のニーズの傾向

行政の公的支援に対して意見はありますか？

<ペアレンツキャンプクライアント調査>より N=188 (2016年)

回答者が20人を超えた主な意見（自由記述、重複回答あり）

- （不登校に対して）待ちましよう対応では解決しない
- 民間機関のノウハウを取り入れるべき
- 支援手法の多様化が必要だ
- 初期対応までの時間を早くして欲しい
- 具体的アドバイスが欲しい
- 家庭教育を学ぶ機会をもっと作って欲しい
- アウトリーチ支援をして欲しい



親御さんが行政支援に対して物足りなさを感じていることが民間機関に支援を求める背景ではないかと思われます。

1. アンケートから見えてくる親のニーズの傾向

ペアレンツキャンプの支援に対する意見はありますか？

<ペアレンツキャンプクライアント調査>より N=188 (2016年)

回答者が20人を超えた主な意見（自由記述、重複回答あり）

- 具体的な内容が学べて良かった
- 家庭ごとに合わせた支援で良かった
- 完全に問題が解決するまでフォローしてくれて良かった
- 専門的な内容をわかりやすく説明してくれて良かった
- 迅速、丁寧なレスポンスが良かった
- 親が変わることで、子どもが変わっていくのを実感した
- 手厚いアウトリーチに満足している

アンケート結果からも民間機関に支援を求める親御さんにはある傾向が見られます。



問題解決に直結する支援を求める傾向があります。

1. アンケートから見えてくる親のニーズの傾向

このような傾向から民間機関に支援を求める親御さんの特徴が見えてきます。

特徴

- ・ 課題解決に対する意識が高い
- ・ 学ぼうとする意識が高い
- ・ 経済的に余裕がある
- ・ 情報を主体的に集める



数ある手法の中から親自身が選択をして家庭教育支援がスタートします。
民間支援機関は専門性を活かして親のニーズを満たすことで経営が成り立ちます。

2. 家庭教育支援センターペアレンツキャンプの取組

① ペアレンツキャンプの概要

組織概要

○組織名

一般社団法人 家庭教育支援センターペアレンツキャンプ

代表者

代表理事 水野 達朗 (Tatsurou-Mizuno)

○本社所在地

〒530-0054

大阪府大阪市北区南森町1丁目1-26 南森町フジビル 8F

○支援内容

- ・ 家庭内問題に対する親へのカウンセリング
- ・ 不登校児童及び生徒への訪問カウンセリング
- ・ 学校教育と地域教育に関する人材育成及びコンサルティング
- ・ 家庭教育の普及のための講演活動及び出版活動

○web

<http://www.parents-camp.jp/>



2. 家庭教育支援センターペアレンツキャンプの取組

① ペアレンツキャンプの概要

～ペアレンツキャンプのコンセプト～

「親が学べば子は伸びる、親が変われば子も変わる」

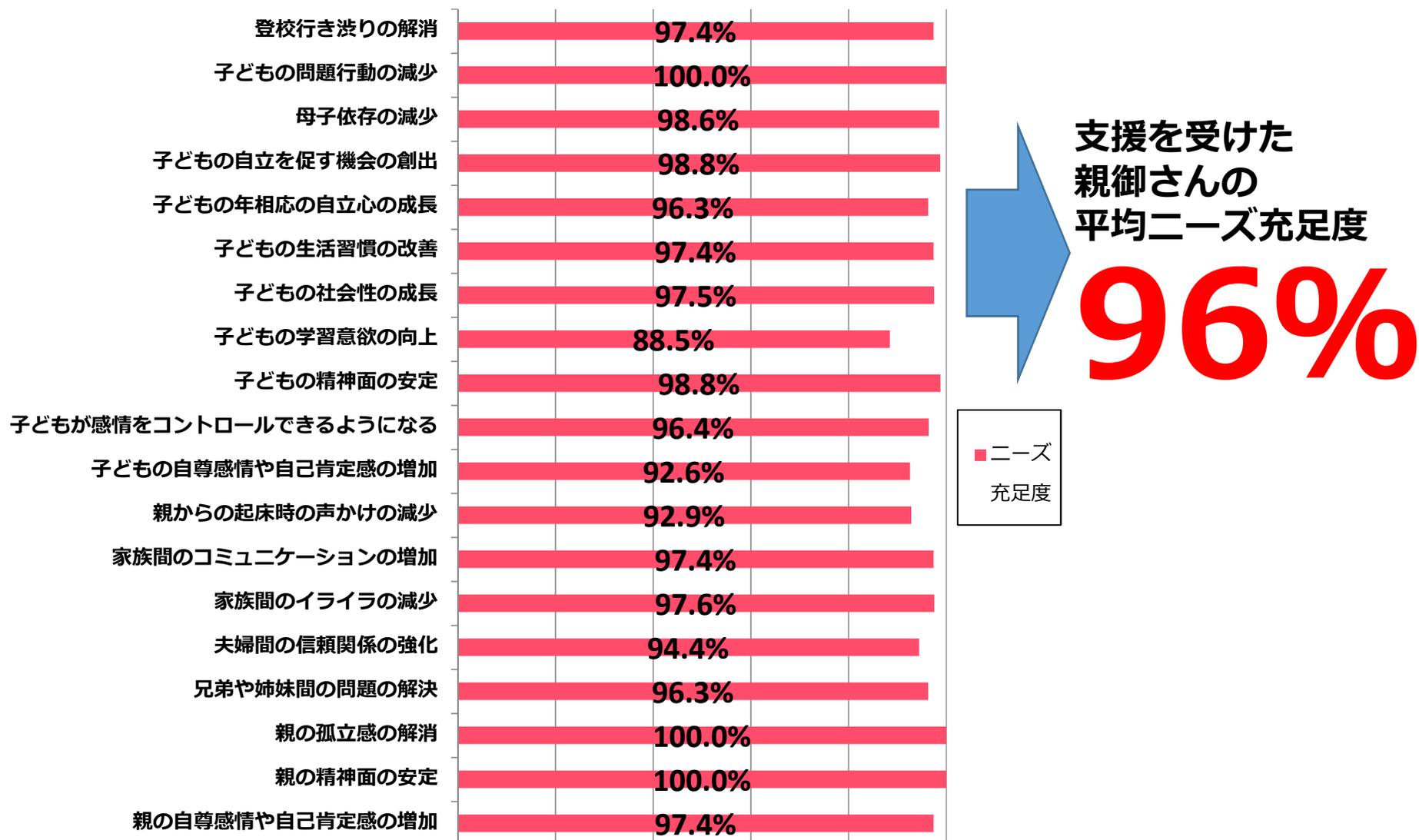
～ペアレンツキャンプの特徴～

- ・ 家庭教育支援と訪問カウンセリングを組み合わせることで**不登校の子どもの復学率が95%超**
- ・ **クラウドを用いた通信添削型**でいつでも、どこでも支援が受けられる
- ・ 自立や社会性を家庭で育むメソッドで**子どもの問題行動を未然予防**

2. 家庭教育支援センターペアレンツキャンプの取組

具体的なニーズ各項目それぞれにニーズがあると答えた親御さんに対して
ペアレンツキャンプの支援に「満足している」と回答した割合
<ペアレンツキャンプクライアント調査>より

N=188 (2016年)



2. 家庭教育支援センターペアレンツキャンプの取組

②ペアレンツキャンプの家庭教育支援

保護者



担当カウンセラーと二人三脚で
取組む家庭ごとに合わせた**カスタムメイド型**の家庭教育支援。

保護者



電話カウンセリングで親御さんの
悩みや相談を聴きます。現状
分析を行い、専門的なアドバイ
スを行います。

保護者

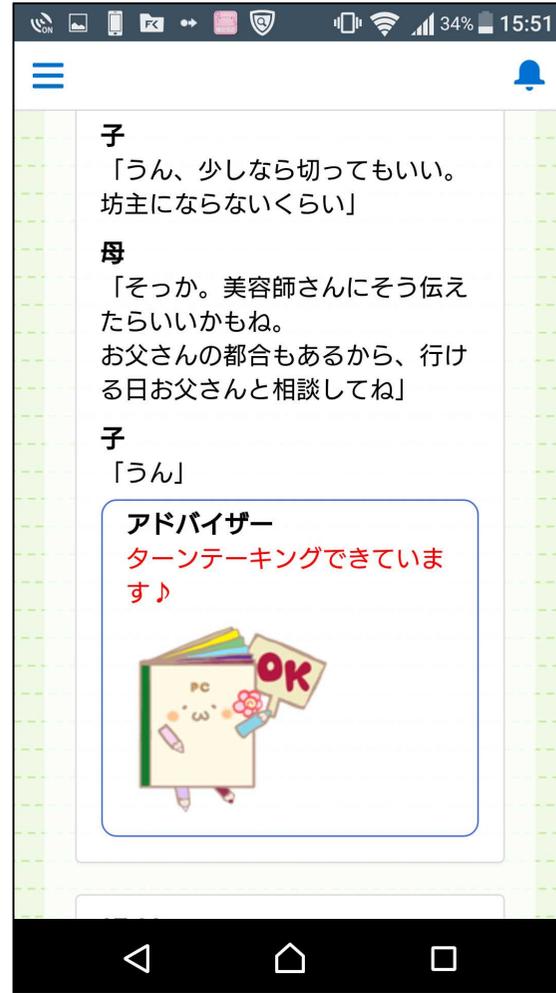
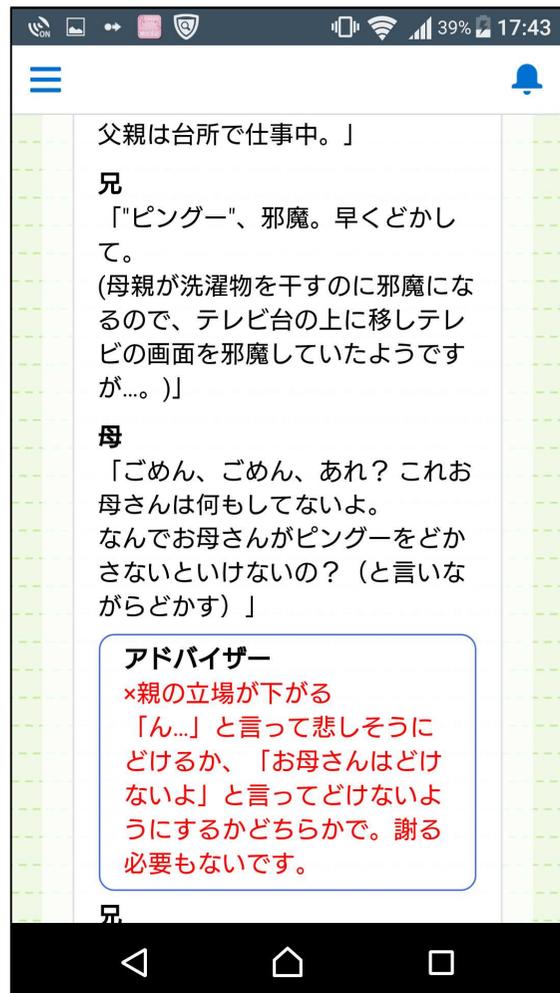


親子の会話を分析し、アドバイ
スします。**クラウドを用いた通
信添削型**の家庭教育支援。

2. 家庭教育支援センターペアレンツキャンプの取組

ペアレンツキャンプの家庭ノートチェック法とは

ペアレンツキャンプオリジナルの 家庭ノートチェック画面



特徴

- 専門的なカウンセリングや教育手法を実践的に学べる。
- スマートフォンやPCからいつでも、どこでも学べる。
- イラストやスタンプも多くて楽しく学べる。

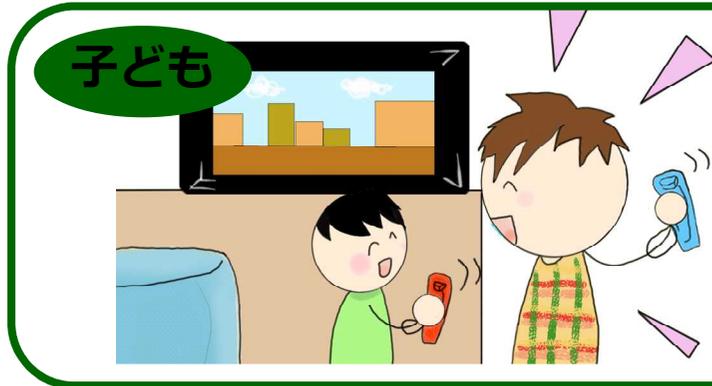
「家庭教育の赤ペン先生みたいで楽しく学べました。」と支援を受けた親御さんからご好評をいただいております。

支援後のアンケート
での満足度

97%

2. 家庭教育支援センターペアレンツキャンプの取組

③ ペアレンツキャンプの訪問カウンセリング



訪問カウンセラーが遊び等を通して、心のケアや信頼関係作りをします。



復学に向けた準備や勉強等を訪問カウンセラーと一緒にサポートします。



復学を目指しての学校との連携や交渉に関してもサポートします。

2. 家庭教育支援センターペアレンツキャンプの取組

訪問カウンセリングの現場



ペアレンツキャンプの訪問
カウンセリングは家族の力
で問題を乗り越えられるよ
うになるまで、あらゆるサ
ポートをします。

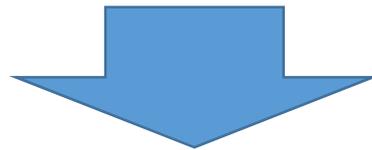
寄り添い、成長を見届けた
後は離れていきます。

2. 家庭教育支援センターペアレンツキャンプの取組

④ ペアレンツキャンプの家庭教育支援の現状と課題

課題

- 親御さんの経済的負担が大きい。
- 急激な人員増加は不可能。
- 循環型の人材活用が難しい。



ユニバーサルな支援、循環型支援はあまり適していない。

3. 大東市家庭教育支援チームの取組

① 大東市の概要



大阪府大東市

- 大阪市の東部に隣接する衛星都市として発展してきました。市域の30%が山間部であり、自然環境都市の側面もあります。
- 人口 122,421人
(推計人口、2016年8月1日)
- 面積 18.27km²
- 人口密度6,720人/km²

3. 大東市家庭教育支援チームの取組

②大東市家庭教育支援チームの概要

すべての教育の出発点である家庭において、家庭教育支援を行うことにより、家庭における教育力の向上を促進させます。
そして、学校、家庭、地域それぞれが教育の役割を担い分けし、相互に連携し、調和のとれた教育を実現します。

～大東モデルの3つの特徴～



1・新小1全戸訪問型支援<市内の全小学校(12校)で実施>
小1全戸訪問を実施するため、大規模な支援体制を構築しています。(相談・訪問チーム員だけでも53人)

2・事業総額 1,192万7,000円
大東市の新規事業として大規模な予算をつけています。
内訳 1,091万9,000円 (大東市一般財源)
100万8,000円 (大阪府アウトリーチ型家庭教育支援モデル事業)

3・活動指標として目標値を定めています。
新1年生の児童保護者に対する訪問件数の目標 1,000件

3. 大東市家庭教育支援チームの取組

③ 課題から逆算して組織を作るという視点



家庭教育支援チーム組織化の際に考えられた4つの課題とそのアプローチ

1. 縦割り行政の解消

- ・ 組織化の最初期から横断的プロジェクトとしてスタート。
(生涯学習課、学校教育課、福祉政策課、地域保健課の担当者がプロジェクトに参加)

2. 人材育成プラン

- ・ リーダーの4名のS SW中心に民生委員、児童委員、青少年指導員で組織化。
- ・ 段階的に循環型の人材育成を導入。

3. 予算の確保

- ・ 市長と協議を進め、大東市としての予算の大枠を決定。
- ・ その上で、補助金等の活用を検討。

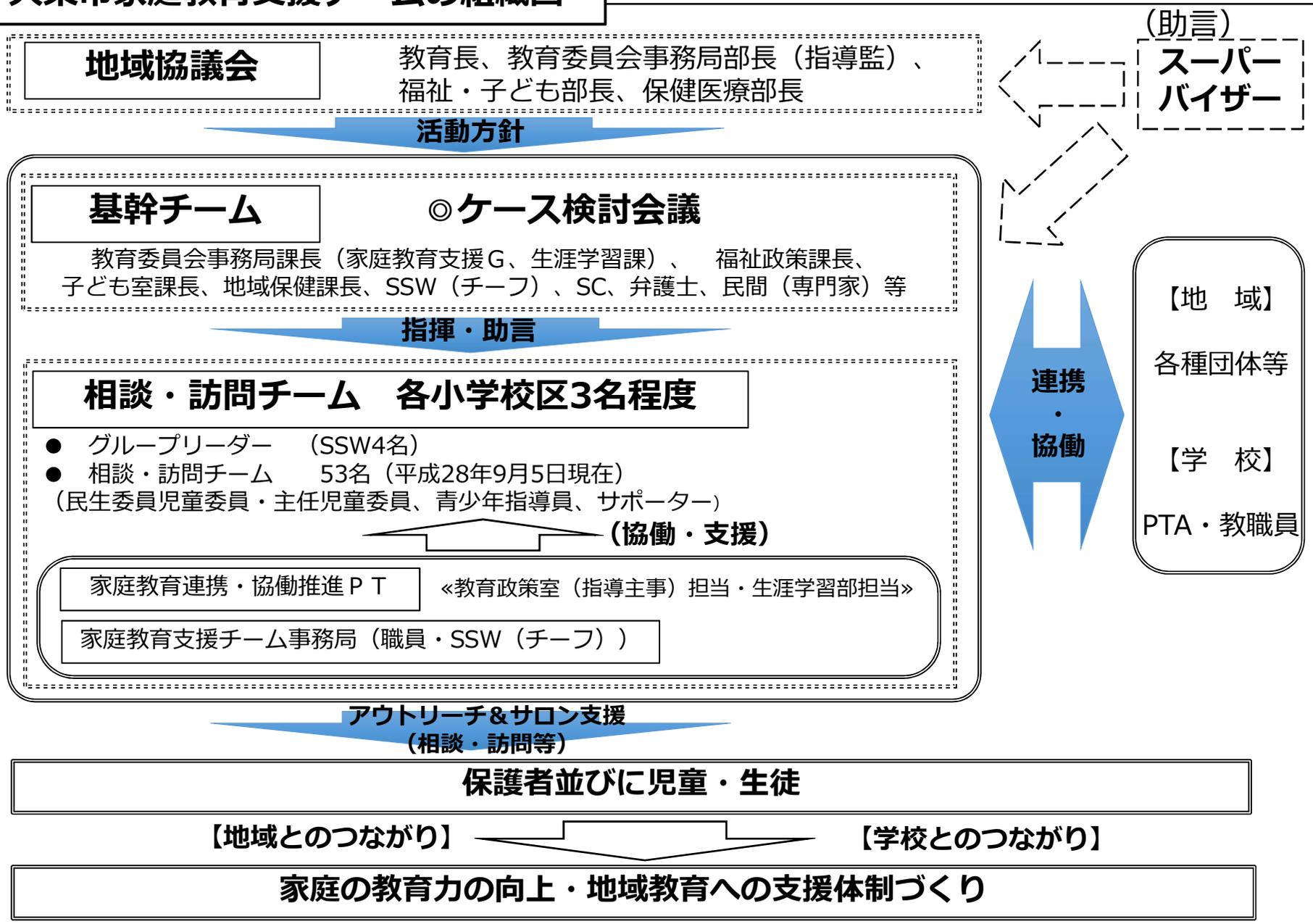
4. 個人情報の取り扱いに関する特例

- ・ 各部局が縦割りで管理している個人情報を家庭教育支援のために包括的に取り扱うための特例措置を規定。
➡個人情報保護審査会の諮問に対する答申により例外事項

3. 大東市家庭教育支援チームの取組

大東市家庭教育支援チームの組織図

(家庭教育支援の推進方策に関する検討委員会(第4回)水野委員発表資料)



3. 大東市家庭教育支援チームの取組

家庭教育支援チーム創設の検討（平成27年8月）

具体的な構成等の検討

事業予算額の確定

国への補助申請

関係規則策定

議会等への周知・報告

第1回基幹会議の開催

支援員の確保と研修

家庭教育支援チームの設立・活動開始
（平成28年4月）

- 地域協議会、基幹チーム会議の随時開催
- 家庭に対する広報周知活動
- 支援員の確保と研修

（家庭教育支援の推進方策に関する検討委員会（第4回）水野委員発表資料）

3. 大東市家庭教育支援チームの取組

大東市家庭教育支援チームの個人情報の取り扱いに関する参照資料

個人情報とは

個人に関する情報であって、特定の個人が識別され、または識別され得るものと大東市個人情報保護条例第2条第1項第1号に規定されています。

例えば以下のようなものがあり、単独では個人を認識できなくても、他の情報と照合することで個人を識別できる場合には、個人情報として管理します。

・氏名 ・生年月日 ・住所 ・電話番号 ・顔写真
・音声、画像情報 ・電子メールアドレス など

※個人情報は、電子情報が書面情報であるかを問いません。

個人情報の収集

個人情報を収集するときは、本人から収集しなければならないと大東市個人情報保護条例第7条第3項に規定されています。

ただし、例外規定があります。

- ・本人同意があるとき ・法令等の規定に基づくとき
- ・他の実施機関から提供を受けるとき
- ・出版、報道等により公にされているとき
- ・個人の生命、身体または財産の保護のため、緊急かつやむを得ないと認められるとき
- ・大東市個人情報保護審査会の意見を聴いたうえで、公益上必要があると実施機関が認めるとき

また、思想、信仰、信条その他の心身に関する基本的な個人情報や社会的差別の原因となるおそれのある個人情報は収集してはならないと大東市個人情報保護条例第7条第5項に規定されています。

※実施機関：市長、教育委員会、選挙管理委員会、公平委員会、監査委員、農業委員会、固定資産評価審査委員会、上下水道事業管理者、議会

家庭教育支援事業における個人情報の収集（本人以外からの収集・収集してはならない情報）については、大東市個人情報保護審査会の答申により例外事項と認められている。

個人情報の利用および提供

個人情報を収集した目的以外に利用し、または実施機関以外のものに提供してはならないと大東市個人情報保護条例第8条第1項に規定されています。

ただし、例外規定はあります。

- ・本人同意があるとき ・法令等の規定に基づくとき
- ・出版、報道等により公にされているとき
- ・個人の生命、身体または財産の保護のため、緊急かつやむを得ないと認められるとき
- ・大東市個人情報保護審査会の意見を聴いたうえで、公益上必要があると実施機関が認めるとき

家庭教育支援事業における個人情報の目的外使用・外部提供については、大東市個人情報保護審査会の答申により必要不可欠なものに限り例外事項と認められている。

個人情報の取り扱い注意事項

- ・個人情報が含まれる書類は、家族やほかの人の目に触れることのないよう鍵のかかるロッカーや引きだしに入れて保管するなど厳重に管理する。
- ・不用意に外部に持ち出したり、コピーをしたりしない。
- ・第三者がいる場面での個人情報についての会話をしない。

※個人情報が含まれる書類等を紛失したり、盗難にあった場合

すぐに教育委員会事務局 教育政策室 家庭教育支援グループに連絡してください。 ☎072-800-7760（直通）

3. 大東市家庭教育支援チームの取組

大東市の家庭教育支援チームのサロン型事業

ほっと！一息しませんか？ いくカフェ

忙しく子育て中のみなさま、おいしいお茶とお菓子でほっと一息しませんか？
どなたでもOK！
子育て、日頃の不安・不満、何でもお話ししましょう♪



日時： 月 日 () 時～ 時まで
場所： 公民館(大東市)

参加費無料・申込不要!

ちょっとゆっくり立ち寄り、色々お話ししてみませんか？
学校、家庭、育児の悩みなど・・・。
(スクールソーシャルワーカーたちが待っています!)

【主催・問合せ先】

大東市教育委員会事務局 教育政策室 家庭教育支援グループ

住所：大東市曙町4番6号

TEL：072-800-7760 (直通)

FAX：072-872-2941



いくカフェ

- ・ サロン型の運営
- ・ 大東市内の全小学校 (12校) で実施
- ・ 参加費無料
- ・ 申し込み不要
- ・ 家庭教育支援チームとの接点

3. 大東市家庭教育支援チームの取組

④ 大東市の家庭教育支援の現状と課題

課題

- サポーター（訪問支援員）の確保と養成
- サロン運営

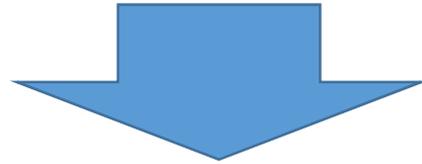


特化したターゲット支援、家庭それぞれに合わせた問題解決支援はあまり適していない。

4. 家庭教育支援の取組を応援するための方策について

① 家庭教育支援に携わる組織のモチベーション向上

事業を継続的に続けていくには現場、事務局、政策決定者、市民それぞれのモチベーションが高くなければいけません。



- **他の事業と連動させ、家庭教育支援から街づくり、地域創生につながるような取組にしましょう。**
- **地域の特性に合わせた取組の参考にできるように既存事業の類型化を進めましょう。**
- **支援を行っているチームがプライドを持って取り組めるように大臣表彰制度を活用しましょう。**

4. 家庭教育支援の取組を応援するための方策について

参考事例

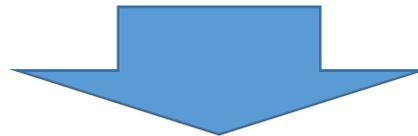
平成26年度優れた「早寝早起き朝ごはん」運動の推進にかかる文部科学大臣表彰



平成26年度は、都道府県等より推薦のあった被表彰候補のうち、62活動が優れた活動として選定されました。

平成27年3月12日に、国立オリンピック記念青少年総合センターで表彰式が開催されました。

- 平成24年度よりスタート（平成24年度は50活動が表彰）
- 2年ごとに開催
- HPで表彰された全活動の詳細を掲載
- 都道府県、政令指定都市、「早寝早起き朝ごはん」全国協議会が推薦
- 大学や企業の取組も被表彰対象活動

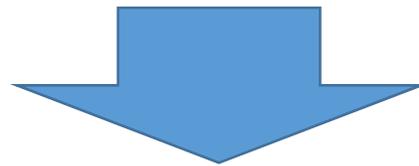


家庭教育支援に携わる組織のモチベーション向上、既存事業の類型化、家庭教育支援による地域創生につながります。

4. 家庭教育支援の取組を応援するための方策について

②行政と民間の連携

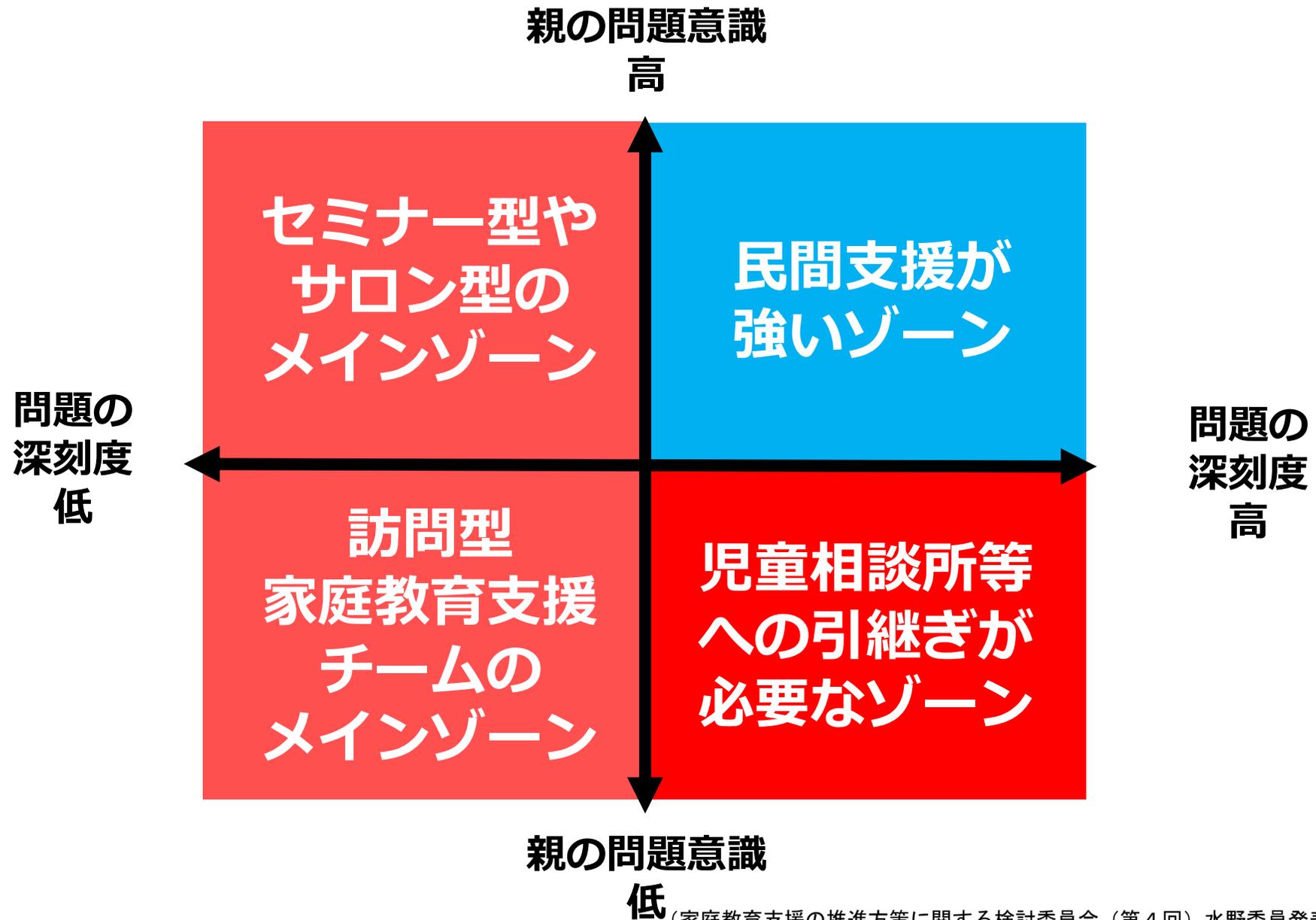
家庭教育支援の取組を推進していくには行政と民間の両輪がうまく回るように機能させることが重要です。



- 行政は民間で成功しているエビデンスのある取組について把握しておきましょう。
- エビデンスが認められた手法に関しては柔軟に取り入れていきましょう。
- 民間、行政それぞれのターゲット層のすみ分けを把握しましょう。
- 地域性等を考慮して、行政支援が手の回らない分野に関しては民間との連携も進めていきましょう。

4. 家庭教育支援の取組を応援するための方策について

家庭教育支援のポジショニンググラフ



4. 家庭教育支援の取組を応援するための方策について

民間支援と行政支援の比較

(家庭教育支援の推進方策に関する検討委員会(第4回)水野委員発表資料)

民間支援の特徴

◎ 求められる属性

専門性 > 地域性 > 当事者性

◎ 人材育成

経営状況から判断して支援者の採用と育成を行うため循環型人材育成のみにこだわらない

◎ 周知広報

企業のブランディングや営業・広報活動が推進方策になる

◎ 事業形態

完全なターゲット型

行政支援の特徴

◎ 求められる属性

専門性、地域性、当事者性が等しく必要

◎ 人材育成

支援を受けた地域の親御さんが支援者として参加する循環型人材育成を目指す

◎ 周知広報

- ・チラシや講演会、子育てサロンを使つての周知広報
- ・学校等の公的なチャンネルで周知広報できる

◎ 事業形態

ユニバーサル型およびターゲット型

このように両者それぞれの特徴や長所を活かしつつ、家庭教育支援の両輪としてうまく機能するように連携していくことが重要です。

